

## - トピック&ニュース -

- 生産者便りの名前が決まりました。
- 田んぼでは土作りが始まっています。
- 阿蘇地方に春を告げる「野焼き」が最盛期です。

阿蘇では4月下旬なみという暖かい日が続いていますが、皆さんのところにも春の兆しが見え始めているのではないのでしょうか。草や木がいっせいに芽吹くのを見るにつけ、やはり四季のある国っていいなぁと改めて感じる今日この頃です。阿蘇の冬は寒かった。でも、それだけに春が来る喜びも大きいのです。お客様の中には東北や北海道の方もいらっしゃいますが、寒い地方では春の喜びが更に大きいのではないかと想像を膨らませています。これが1年中暖かい国だったら、こうした季節の移り変わりを楽しむことができないのですよね。

さて、嬉しさのあまり挨拶文が長くなってしまいました。

昨年末にこの生産者便りの名前を募集したのを覚えていらっしゃるでしょうか。皆様からのアイデアや私たちの思いを検討した結果、「よかところ通信」に名前が決定いたしました。今後とも、組合がつくっている「おあしす便り」に加え、我が家の出来事や農業にまつわる小話を紹介していきたいと思えます。ご意見やご要望、ご感想などありましたら、メールやファックス、振込用紙の通信欄に書いていただければ幸いです。折にふれてこの「よかところ通信」でも皆様のお声を紹介してみたいと思えます。「よか(良い)」「ところ(所)」になるような農家を目指して今後とも努力してまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。



春が来て、自然ばかりでなく人間も活動を開始しています。九州の中でも特に暖かい宮崎県では、すでに田植えが始まっているとか。阿蘇は高原なので、九州の中では田植えの時期が遅いほうですが、苗作りの準備は始まっています。道では資材を運んだり、土作りのための堆肥を運んだりしているトラクターをよく見かけるようになりました。

女性陣の「菜園づくり」も始まっています。周辺の家にはどこも菜園がありますが、人それぞれで見ていると面白いものです。我が家の菜園も堆肥を入れて耕運機で耕しました。勵志兄のところと我が家には、汲取り式の便所があるので、我々の排泄物も畑に撒かれます。昔、人糞は現金買取りだったそうですね。何でも、いいものを食べていた大名家の糞尿は特に高かったとか。他にも、使い終わったわらじや蓑も良い肥料になったそうです。本当に昔の生活には無駄がなく、感心するばかりです。

阿蘇地方に春を告げる農作業の一つに「野焼き」があります。阿蘇の草原を維持するために、1000年以上も前から続いているのだそうです。最近は牛の数が減ってきたり、農家の高齢化が進んでいたりするので、野焼きの人手を確保するのも一苦労です。

阿蘇谷（阿蘇山の北側）の野焼きは、「阿蘇グリーンストック」という財団法人が呼びかけて、都会からの野焼きボランティアを募っています。ボランティアの方々は最初に講習を受けてから現場に行きます。日ごろの運動不足やストレスを解消するためでしょうか、ボランティアの数は年々増えているそうです。野焼き後の真っ黒な山肌は少し不気味ですが、1週間もすると緑の芽があちこちから出てくる様子は感動的です。



一方、私たちの放牧地には牧草の種を蒔いていて、採草地には国が地下水涵養のために植林をするそうなので野焼きの必要はありません。阿蘇の伝統行事として野焼きを続けていくことも大切ですが、実際に作業に携わっている人の負担を軽減することも大切です。



皆さんも、ぜひ身近な「春」を観察してみてください。それでは、また。お元気で。

平成16年3月18日